

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和6年8月6日

公表:令和6年8月8日

事業所名 ソレイユ守谷

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0	0	1日定員利用10名に対して、1時間2名までの受け入れとし、療育内容により部屋を分けているためスペースは適切であると考ええる。	運動室については少し狭いという意見もあるが、安全面に注意しながらおこなっていく。
	2 職員の配置数は適切である	7	0	0	規程にある配置数は常に満たした状態で運営している。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	1	玄関および各部屋にスケジュールを確認できるカードを設置し、どの順番で何をやったら終わりとなるか見通しがつくように工夫している。	内部は細かい段差が多い作りとなっているため、特に玄関や療育室の階段など危ない所はスタッフで共有するとともに目印等で目立たせ注意喚起をおこなっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0	0	毎日清掃及び消毒を実施している。療育と運動の部屋を完全に分けており、活動がしやすい環境を整えている。また、コロナ対応として入口と出口を分け入替時に密にならない様に工夫している。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	7	0	0	スタッフからの環境整備や業務改善についてのアイデアをミーティングで取り上げて話し合い、改善を進めている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	毎年保護者へのアンケート調査をおこなっている。アンケート調査から保護者の意見や要望をまとめ公表するとともに業務改善に活かしていく。	アンケート調査から保護者の意見や要望をまとめ業務改善に活かしていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0	事業所向け自己評価をおこなって業務や指導の質の向上に努めている。	ホームページにて掲載しているが保護者の中にはホームページの存在を知らない方もいたため、引き続き会報などを通して周知していく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	3	4		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0	社内研修に加えて動画による研修システムも取り入れた。また、資格取得に関して社員・パートに関わらず積極的に奨励し、サポートできる体制を整えている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0	0	契約時にアセスメントシートへの記入と聞き取りからニーズの把握をおこなっている。また支援のなかで、児童の性格や得意不得意を把握したうえで、個別支援計画を作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	0	0	共通のアセスメントシートを作成し、昨年度については新たな項目を加えて刷新し指導スタッフが全員使用できる様になっている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	0	契約時のアセスメントを元にした支援内容を設定し支援に当たっている。また、保護者からの相談や指導時の気づきなども加味しながら個別支援を提供するとともに年1回の公認心理士との発達相談や事業所内相談支援などを提供して家族支援にも努めている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0	0		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	1	準担当制となっているため、活動プログラムについては児童発達支援管理責任者を中心に、療育担当者、運動担当者が話し合いながら立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	個別支援のため、短期目標に合わせて一定期間、同一のプログラムをおこなうこともあるが、児童の課題の達成度に合わせてプログラムの内容は変更している。また、季節に合わせて特別なプログラムをおこなうなど固定化しないよう努めている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	6	0	1	当施設は基本的には個別指導のみであるが、課題によっては他のスタッフや同年代の子も含めた小集団で取り組む事もある。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	1	個別支援のため、チームでミーティングをおこなう事はないが、担当する子について児童発達支援管理責任者や協力をあおぐ職員間での打ち合わせ・役割分担を確認している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1	2	支援終了後には出来ないが、指導内容を情報端末を使って記録し、他のスタッフも閲覧できるように整備して情報の共有を図っている。また、支援についての疑問や反省点等がある場合は児童発達支援管理責任者に都度相談し振り返りをおこなっている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	上記同様に児童発達支援管理責任者に支援内容について相談と報告をしており、絶えず見直しをおこなっている。		
その他	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	7	0	0	基本的には児童発達支援管理責任者が出席している。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	0		一部の関係機関とは連携を図っているが今後さらに連携を図っていく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					

関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	1	移行支援は出来ていないが、主に保護者から園での支援内容についての情報を得ている。また、必要に応じて当事業所での支援内容を保護者に紙ベースでお渡し、園にお持ち頂いている。	今後は保護者の意向を元に連携が出来るように努めていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1	1		今後は相談支援事業所などと連携し、特別支援学校などの参観日に出席する等支援内容等の連携に努めていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1	0	茨城県発達障害者支援センター等がおこなう研修を職員に周知し、研修を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	3	2	交流する機会はほとんどない。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	0	1	守谷市の障がい福祉サービス事業所連絡協議会に加入しており、定例会や研修会への参加などを積極的におこなっている。	引き続き守谷市の障がい福祉サービス事業所連絡協議会の定例会やイベントに参加する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	指導時や子どもの受け渡し時に事業所での子ども達の状況を説明し、ご家庭での状況も聞き取り指導に活かしている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	6	1	0	ペアレントトレーニングとしてはおこなっていないが保護者の悩み等に対して公認心理士の発達相談や児童発達支援管理責任者による事業所内相談にて支援をおこなっている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0	0	契約時等に十分な説明、意見等を伺うように努めている。また、玄関にも保護者がいつでも閲覧できるように運営規定、契約書などのファイルを常備している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0	0	児童発達支援ガイドラインに沿って計画書を作成し、個別面談をおこなって保護者の同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	保護者からの相談に関しては、職員で対応できるものは即時に対応し、難しい場合には事業所内相談ができる体制を整えている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	2	5	当施設内では実施していないが、地域の父母の会の活動チラシ等を玄関に設置して保護者が参加できる機会を設けている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0	保護者からの相談に関しては、職員で対応できるものは即時に対応し、難しい場合に専門家に相談できる体制を整えている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0	0	昨年会報を発行して事業所の活動内容等を知って頂いた。また、HP等では施設の出来事やイベントの周知を図っている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	0	0	鍵付きのロッカーを使用する、個人情報ファイルを外部に持ち出さないなどのルールを職員間で徹底し、厳重に保管並びに管理をしている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	ご家庭に応じて、連絡帳を活用するなどしている。また、絵カード等を用いて視覚的に理解できるよう工夫もやっている。	より良い情報伝達の方法として携帯アプリの導入等を検討する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	2	5	今年度は実施していない。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	0	緊急時対応については玄関やスタッフルームに掲示しているが、その他のマニュアルについては保護者には玄関にポスターを掲示している。	今年度については防災訓練を支援時間内に実施予定。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0	緊急時マニュアルを整備して施設内の防災グッズを点検・整備し、防災訓練も実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	5	2	0	事業所指定のアセスメントシートに記入して頂いた服薬情報に関しては確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				個別支援のため、事業所において食事やおやつ等を食べるケースはないが、事業所指定のアセスメントシートにアレルギーを記載する項目を設けており、児童の把握に努めている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	1	ヒヤリハット事例の報告書や事故報告ファイルを作成して情報を共有している。	今後更に多くの事例を検討事項に入れていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	全スタッフ参加で虐待防止に関する研修を定期的に実施し共通理解を深めている。	今年度も虐待防止の研修を実施し、スタッフが適切な対応を取れる様に努めていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0	0	やむを得ず身体拘束を行う場合の対応については、研修内で全スタッフに周知徹底している。組織的に決定したうえで身体拘束があった場合は保護者への説明を丁寧におこなう様にスタッフには周知している。	

〇この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。